

ママだって〇〇したい！

私には子供がおり、現在楽しく子育てをしている真っ最中です。しかし、子供の人見知りが激しく母のもとを離れることができなかつたり、そもそも預ける先がない場合、子供がいることで制限される行動や利用が難しくなる施設が案外多いものです。

そこで、この機会に実際に採用されれば子持ちの人間がより住みやすくなると考えられる「まちづくりに関する提案」を実生活やママ友達の話を基にいくつか考えたので、以下に3項目に分けて記述します。

①ママだって図書館いきたい！

私は本を読むことが好きなので、しばしば図書館を利用していました。しかし、静粛な環境を保つことが原則の図書館に泣いたり、大きな声を出す可能性のある子供を連れて行くことはためらわれ、全く行くことがなくなってしまいました。有料宅配サービスを用意してくださったりもしているようですが、自分でページをめくりつ

つ見て回れるのも図書館の魅力のひとつだと考えます。

このことから、「通常の閉館時間後30分間、子連れの間などが利用するための時間を設ける」、「週に1度、開館時間中の1時間を子連れの間などのための時間にする」というように、一般の利用客に気を使わずに本を借りに行くことができる時間をつくることを提案します。これが実現すれば、騒いでしまう可能性のある子供を連れての来館はもちろんとして、狭い通路にベビーカーを押して入っても気を使うことがなくなります。また、絵が重要となる絵本を子供を連れて実際に見て回るできるようになります。



②ママだって映画館いきたい！

映画館は映画を見るのに最適な環境を作りだしてくれているのですが、これもやはり子連れであることを考えると来館がためらわれる要素がいくつかあります。まず、抑えてある照明や大きめの音量は子供を怖がらせてしまいます。また、子供が泣いてしまうとスクリーンから離れざるを得ないので、結局まともに映画を楽しむことができなくなります。泣きやませるために授乳を行おうとしてもスクリーンを離れる必要があります。というように、通常営業時の映画館へ子連れで行き映画を楽しむことは厳しいように思えます。

そこで、一定期間ごとに母子及び女性のための日を設けることを提案します。この日は母子及び女性だけが鑑賞できるスクリーンを設定していただき、照明は明るめで音量は小さめ、空調も幼児向けに調整している、というような空間を作っていただくことが理想です。また、ベビーカー保管場所の確保やチャイルドシートやオムツ交換用のベッドの設置もしていただけると更に利用しやすいと思います。子供が泣いてしまった場合も、母子用前提での上映であれば過剰に気を使うこともありません。

既に子連れの親子で利用するための上映回を設けてある映画館もあり、そのシステムがもっと周知され一般化すれば、子連れの母が映画を観る環境は整うとも思いますが、本案には母子及び女性限定で男性のいない状況を作り出し、鑑賞を中断することなく授乳することもできるという利点があるので、あえて今回のシステムを提案しました。



上図はTOHOシネマズ ママクラブシアターの様子

③ママだって資格ほしい！

今子育てをしている母親でも、いつか仕事を始めようと思ったときのためにエクセルやワードに関するものなど就職において幅広く

活用できると考えられる何らかの資格を取得しておきたいと思うものです。しかし、そのために資格取得講座を受けようと思っても子供がいると時間を満足にとれず、一回の講習時間が長いものや短期に何度も講習を受けに行かなければならないものだと受講が難しくなってしまいます。

以上より、上記のように資格取得講座の受講が難しいが、それでも資格取得のための勉強をしたい、という人間のために少し特殊な資格講座の開講を提案します。その講座とは、「1回の講習が1時間程度の短時間で行われ、長期にかけて時間の余裕をもって受け続けることができる”母子向けの”講座」です。

短時間講習を長期に渡って受け続けられる、という条件の講座は少なからず既にありますが、今回提案したいのはそこに更に”母子向けの”要素として「子供を連れてくることを許可している」「講習の進行ペースが一般的なものより遅い」という2つの条件を追加した講座です。

前者は、冒頭で述べたとおり子供を預けることが難しい人間のためのもので、受講生の席の隣に子供用の椅子を用意してある状態が

理想です。また、ひとりで遊べる子供のためのキッズスペースのようなものもあるとより良いと思います。

後者についてですが、講習を受けに来ても子供の世話をしている間に聞き逃すことがあったり、そもそも子供の体調不良が原因で欠席してしまうことがあるかもしれません。その点を考慮し、1つの項を時間をかけて説明したり、1度説明した内容を復習する時間を作るなどして多少聞き漏らしても講習内容についての理解が遅れないようにするためのものです。



以上3つが今回、私が考えた実現すれば子持ちの人間がより住み

やすくなると考えられる「まちづくりに関する提案」です。どれも極少ない頻度でも構わないので実現してもらえるととても助かります。もちろん、今回提案したもの以外のママでも〇〇できるまちづくりも今後期待しているので、ぜひともよろしくお願い致します。